

会 議 録				
平成30年度第1回 在宅医療・介護連携推進 会議	日 時	平成30年7月5日(木) 午後7時00分～	場 所	小金井市役所 第2庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	齋藤委員長(小金井市医師会) 森田委員(小金井市薬剤師会) 大山委員(小金井太陽病院) 岩井委員(のがわ訪問看護ステーション) 高塚委員(みずたま介護ステーション小金井ケアプランセンター) 関本委員(アビリティクラブたすけあい)		
	事務局	増田(小金井きた地域包括支援センター) 高橋(小金井ひがし地域包括支援センター) 田口(小金井みなみ地域包括支援センター) 久野(小金井にし地域包括支援センター) 鈴木(高齢福祉担当課長) 濱松、松原、佐藤(介護福祉課 包括支援係) 川崎(小金井市医師会在宅医療・介護連携支援室)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶				
2 議題				
(1) 小金井市における在宅医療・介護連携推進事業の取り組み状況について				
(2) 多職種連携に関する医療機関・介護事業所への実態調査の調査項目について(グループワーク)				
1. 高齢福祉担当課長挨拶				
2 議題				
(1) 小金井市における在宅医療・介護連携推進事業の取り組み状況について				
(事務局・濱松)				
在宅医療・介護連携推進事業については、平成23年以降に実施された国のモデル事業の成果を踏まえて、平成26年の介護保険法改正の際に市区町村の実施する地域支援事業の包括的支援事業の一つとして位置づけられ、平成30年4月には、全ての				

市区町村で（ア）～（ク）、8つ全ての事業項目を実施することとされている。そこで、平成30年4月を迎えた最初の推進会議内で小金井市の実施状況を御報告させていただきたい。

小金井市では4月現在、8つ全ての事業項目を実施している。

今後については、予定に記載されている内容を実施していくとともに、国が示している本事業推進のイメージのとおり、引き続き（ア）及び本推進会議である（イ）により地域の医療介護連携の実態把握、課題の検討、課題に応じた施策立案を行い、それに基づき、（カ）による地域の関係者との関係構築、人材育成を行うとともにその他の取り組みを行い、全体をPDCAサイクルで継続的に実施することで推進事業の成長を図ってまいりたい。

（2）多職種連携に関する医療機関・介護事業所への実態調査の調査項目について（グループワーク）

（グループワーク）

（Cグループ）

・内容や職種等で連携の必要性を感じる相手が異なってくるので、無理に全員でつながっていくというよりは、つながりたい人同士でつながればいいのか。その中で、連携の必要がある相手に個別にアタックする

・連携の必要のある人同士でつながる研修を行う場合は、そういう研修会をみんなが知っているという状態を作らないといけない

・1枚しかないアンケートを企業にぼんと送って、上の人が「やっている。」と回答して、実はやっていないというのもあるので、このアンケートは要らないのではないかな

（Bグループ）

・このアンケート調査票の周知の仕方はメールだけでなくFAXも併用すると良い。

・アンケートを出す場所を小介連に所属している事業所だけにする場合、小介連に入っていない事業所はどうするのか

・研修は今までの参加率を見れば、出ていない事業所がわかるので、出ていない事業所とつながりのある人が電話をかけて、誘ってみるのも効果があるのではないかな。

・研修内容は最初からグループワークというのは、結構ハードルが高いのではないかな。

・アンケートの内容は文章だけではなくて、もうちょっとポップな感じや回答してみようかなと思うような見た目が大切

・アンケートの中の公休日の質問は土曜日と日曜日とを分けたり、答えの書き方など

も○をつけるだけとすると良いのではないか

・研修の中身に関しては実際にすぐにケアに役立てられるような講義形式の研修を開催し、その研修の中で、こういうグループワークもあると他の研修を紹介する等、段階を踏むのも良い

・研修に参加して良かったという声も伝えていく良い

・主催元が市となると、結構皆さん出てくるのではないかと思うので、最初は市をしっかりと書いたほうが良いのではないか

・アンケートを連携支援室発信でなく、市発信にしたほうが答えてくれるのではないか

(A グループ)

資料 2-1 について

・鑑文は見ないのではないか。手元に届いた際に、もうちょっと目を引くようなコメントがあったほうが良いのではないか

・研修の内容を載せたり、実際に研修をしている写真を載せたりしてこんな内容をやっていますとか、こういう方が参加していますとわかりやすい案内があるのが良いのではないか

・多職種研修に参加されていない人へのアプローチという点では、参加されていない人たちに向けたコメントを入れた案内が必要ではないか

資料 2-2 について

・多くの人に届くように通知方法もメールとか F A X のどちらに限定するのではなくて、両方やったほうが良いのではないかという意見も出ました。あわせて、M C S でも見られるようにできたらいいのではないか

・周知方法は小介連から一斉に配信するというよりは、小介連のグループごとの配信の方がより周知ができるのではないか

・調査内容の 1 番の「研修等の通知を受け取る場合、どのような方法が良いですか？」というところでは M C S を入れたほうが良い

・調査内容の 2 番の「研修等の通知を受け取った後、所属職員等にはどのように通知していますか？」というところに関しては、もう少し細かく誰がどのように回覧をしているとか、誰が受け取って、どのように周知して、どのように回収しているかといったところが出るといいのではないか

・調査内容の 3 番の「参加しやすい時間帯を教えてください」というところは、できれば時間軸をつくって、この辺の時間が出やすいのではないかと○をしてもらったらいいのではないか

・曜日のところについても、月初と月末のどちらがいいかということも追加したほうがいいのではないかと

(齋藤委員長)

総合討論の時間が少し残ったので、今、聞いたほかのチームの意見に対する質問とかコメントがありましたら、あるいは自分のチームへのつけ足しでもいいですけどもお願いしたい。

(森田委員)

事業所名が載っていると、やはりやりにくいとか、結局、時間帯を聞いても、既に多職種研修でとっているアンケートと同じような答えが出てきてしまったら、集まりやすい時間帯でやるしかなかったりするのでは、同じ結果になるのではないかと

(齋藤委員長)

出てきている人たちのアンケートではないからということで、鑑文のほうには、全ての職員あるいは出ていきにくかった人たちの意見も聞いてくださいみたいな感じで書いて、別の意見を吸い上げるようにしたらどうかという意見がAチームでは出た。

(事務局・川崎)

先ほどの話で、市を前面に出したほうが良いというのが、連携室の名称が小金井市医師会在宅医療・介護連携支援室なので、やはり医師会が何かをやっている印象を与えてしまいがちなのではないかと。私たちは医師会とは何も関係ないと思ってしまうような人たちも多分相当いると思うので、そういうことが原因で誰かが来ないのであれば、小金井市がやっているということを前面に出したほうが、より皆さんが来やすいのではないかと

(齋藤委員長)

Cチームさんの発言の中の「特定の小グループで研修をする。」というのは、具体的にはどういうことなのか。

(森田委員)

介護系の方が学びたい内容と医療系が学びたい内容で、余り医療的な処置の話になってくると介護の人は入れなかったりするのでは、みんなを呼ぶ研修会ではなくて、職種ごとの小さい研修会のほうが良い。介護は介護でというのを今はもうやっていると思うのですが、やはりそういうところに戻ってくるのではないかと

(齋藤委員長)

職種ごとにやるというのは、この会の趣旨と違う。多職種連携、医療、介護、みんなの連携だから、今の意見に合わせる場合は、多職種研修を包括の圏域ごとに行うのが良いかもしれない。

(森田委員)

連携主体、医療機関というのが市全体では大きくなってしまふ。

(齋藤委員長)

地域包括ケアシステムの「地域」というと中学校圏域ということになるのです。4包括ごとに多職種研修会を置くのもいいかもしれない。その方がより緊密な連携ができるし、それだったらできるという人もいるかもしれない。

(森田委員)

そういう小さい地域なら、出席のお願いもし易いのでは。

(事務局・久野)

何度か多職種連携会、勉強会に出させていただいているのですが、いつも大抵いらしている先生のお顔が同じで、うちの圏域の先生は余りお見かけしないなというのが正直なところだったので、グループワークの中では小地域で行う研修のことも話題にしました。

(齋藤委員長)

今日の結果を市のほうで集約したものを使って、実態調査をしていきたい。市というものを前面に出さないと多分まとまってこないと思うので、集約する場所の調整をお願いしたい。

次回日程 平成30年10月11日(木) 19時～21時